



# 授業づくり講座 in 香南市立野市小学校



10月7日（木）授業研究会

I 資質・能力を育成する単元づくり ～学習指導要領の趣旨理解～

学年：第3学年  
単元名：「ようこそ！3年2組の水ぞく館へ ～たん当コーナーのみ力をスピーチで伝えよう～」  
教材名：「話したいな、わたしのすきな時間」（東京書籍3年下）  
言語活動：下級生に3年2組の水族館の魅力を伝えるために、担当するコーナーのおすすめをスピーチする。

- 本時の目標  
相手に伝わるように理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。  
【思考力・判断力・表現力等A(1)イ】
- 言葉による見方・考え方  
アドバイスを基に、話の中心が伝わるようにスピーチの構成や内容を考え、書き加えたり、書き直したりする。



授業者  
北村 あゆみ教諭

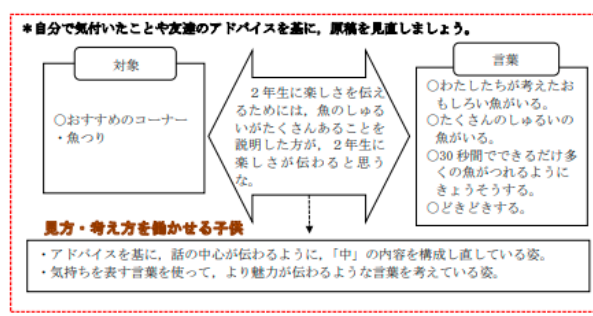
**2. トラック圖**

多くの2年生に来てもらうために「3年2組水族館」の魅力を1分間スピーチで伝える。  
○スピーチの構成 始め・・・水族館の紹介と来てほしいという思いや願い  
中・・・おすすめすること（魅力）とその理由（必ず気持ちを表す言葉を入れる）  
終わり・・・呼びかけ

○話し方 ・聞き手の反応を見ながら、相手を見て話す。

**言語形式** 話の内容が伝わるよう構成を考え、スピーチする。

①話す材料をメモに整理する。	気持ちを表す言葉 ・おどろく、 ・はっとする、 ・楽しくなる、 ・きんちょうする、 ・ドキドキする、 ・いやいやする、など	魅力を伝えるための言葉 ・なんといっても～です、 ・じっくりと見てほしいのは、～です、 ・おすすめしたいのは、～です、
②話の中心を決める。		呼びかけの言葉 ・ぜひ、～な水族館に来て下さい。
③組み立てを考え原稿を作る。 ・「始め」と「終わり」で中心を伝える。 ・「中」で話の中心をくわしく伝える。		
④話し方を練習したり、構成を見直したりする。		



## 協議の視点②「ICTの活用は効果的であったか」

- タブレットで相手のスピーチを何度も見直したり、自分のスピーチを客観的に見たりしたことが、主体的な学びにつながっていた。
- 同じスピーチを複数人で見ることによって、いろいろな意見をもらえ、課題が明確になっていた。
- 自分と友達のスピーチを比べやすく、どのように直したらよいかを捉えやすかった。
- スピーチ原稿がなかったため、ICTと両方で活用すれば、内容を把握してアドバイスができたのでより効果的になったのではないかと。

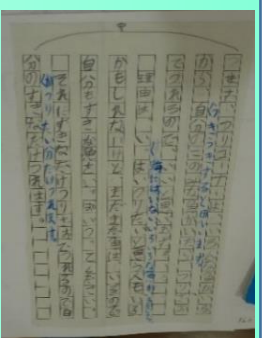


コロナ禍のため、グループでの視聴・アドバイスから、個人での視聴に変更。

講師による助言・講話より

元鎌倉女子大学 准教授  
松永 立志氏

- 系統性を意識した指導の重点化**  
同領域の前学年や前単元までに学習していることは、児童が本単元で使えるようにさせる。また、本単元での初めての学習（指導事項）は系統表を確認したうえで、丁寧に教えることが必要。
- 「話すこと・聞くこと」の学習者の意図の重要性**  
相手意識・目的意識が大切であるが、相手を決めるだけでは意識化されない。相手のニーズや期待（どんなことを思ってくれると成功なのか）を基に、それぞれの児童に目的を達成する意図（思い・願い・考え）を持たせることが必要。そうでなければ、本当の意味で身に付けなければならない能力は身に付かない。
- ICTの効果的な活用**  
話すこと・聞くことではタブレットでのICTの活用はしやすいが、効果的に活用するためには、どの場面で使うのが重要であり、吟味する必要がある。スピーチは生の声が一番分かりやすいが、自己評価する時には、自分自身を客観的に捉えることができるのでICTを必ず使った方がよい。また、友達のスピーチのよさや児童自身が真似したいところを見る際にも最適である。
- 対話的な学び**  
対話することで、BeforeとAfterが変化しないといけない。自分の学習に変容をもたらすことによって、対話的な学びが成立する。今回の授業では、対話後、友達の意見を取り入れて原稿を見直し、変更箇所が青で修正されており、後で自分が見た時も分かりやすくなる。また、友達へアドバイスや評価をする時は、見てほしい所（評価する所）を事前に知らせておくことで、相互評価がしやすくなる。



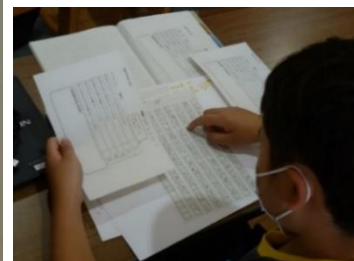
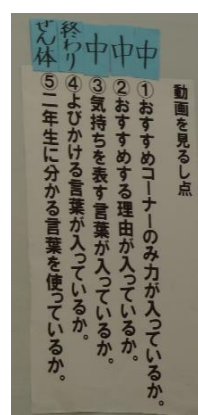
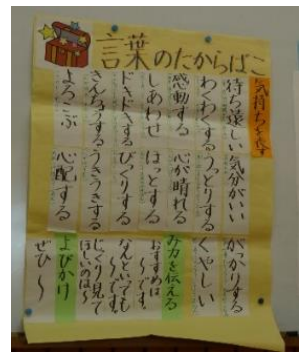
授業改善の工夫

- ◆**最適な言語活動の設定**  
・児童にとって必然性のある言語活動となるよう、相手（2年生）に対して、目的意識（「3年2組の水族館に来てほしい」）を明確にすることで、思いや願い（魅力を伝えたい）を持たせた。
- ◆**「タブレットの録画機能」を活用する**  
・自分のスピーチを振り返ったり、グループで視聴し、アドバイスを伝え合ったりして、改善策を探ることができる。また、何度も確認できることや、具体的な材料を基に評価をすることができ、学習の質を高めることができる。

## 2 授業力の向上 ～教材分析と授業省察～

### 協議の視点①「児童に付けた力（資質・能力）が付いたか」

- ゴールイメージを持ってそれぞれが主体的に行っていた。
- 前時までに学んだことを確認し、活用することができていた。
- 友達のスピーチの構成を視聴する際、評価の視点がなかったのか。また、チェックの仕方が○や△だけでは話の構成を考えることが不十分であり、根拠や理由をきちんと伝えるべきではなかったか。
- 友達に見直してもらった後、返却されたのを見て、なぜ△なのかを相手に尋ねていた児童もいたため、机間指導での対応だけでなく、事前に、△の評価の理由を相手に聞いてもよいことを全体に伝えておいてもよかったのではないかと。



## 3 人とのつながり、学びの高まりの構築～他者との交流から学びの質を高める講座～

### 参加者の感想

- 国語科の系統性を意識しながら、授業を組み立てることの大切さを改めて学んだ。
- 本単元で付けた力とは何か、それを付けたと言える児童の姿はどういう姿か。その力を付けていくためには、どのような単元構成にして、1時間の授業の目標や流れはどうするかを考えていくことが大切だと分かった。
- ICTの効果的な活用の視点がとても分かりやすかった。効果的な活用によって、子供の思考が可視化され、見方・考え方を働かせていることも見えてくると思った。
- 国語科で付けた力を他教科や他領域と関連付けることや、実生活や実社会で通用する言語活動を設定するという視点を他教科でも大事にしていきたい。